安全データシート

785 FG Parting Lubricant

JIS Z 7253 : 2019 に準拠

作成日: 2026/03/27　改訂日: 2026/03/27　バージョン: 1.0

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 : 785 FG Parting Lubricant

製品情報 : 混合物

推奨用途及び使用上の制限

推奨用途 : 合成ベース。カジリ、自己溶着、腐食、ガルバニックアタックを防止し、金属部品の組み立てと分解を容易にします。

使用上の制限 : 酸素システムには使用しないでください

会社情報

製造業者

A.W. Chesterton Company
01834-1507
USAMassachusettsGroveland860 Salem Street
T +1 978-469-6446 (Mon. - Fri. 8:30 - 5:00 PM EST) - F +1 978-469-6785
productsdss@chesterton.com - www.chesterton.com

緊急連絡電話番号

緊急連絡電話番号 : 24 時間 365 日
Call Infotrac: 1-800-535-5053
北米以外+1 352-323-3500 (collect)
Response is expected to be in Japanese

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に対する有害性	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 2

ラベル要素

絵表示 (GHS JP)

注意喚起語 (GHS JP) : 警告

危険有害性 (GHS JP) : 皮膚刺激 (H315)
強い眼刺激 (H319)

注意書き (GHS JP)

安全対策 : 取扱い後は手、前腕および顔をよく洗うこと。(P264)
適切な保護手袋、保護服、保護眼鏡、顔面の保護を着用すること。 (P280)

応急措置 ： 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。(P302+P352)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。(P362+P364)
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察／手当てを受けること。(P332+P313)
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
(P305+P351+P338)
眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。 (P337+P313)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 ： 混合物

名前	濃度 (%)	化学式 (上書き)	官報公示整理番号		CAS 番号
			化審法番号	安衛法番号	
炭酸カルシウム	30 - 60	CCaO3	(1)-122	(1)-122	471-34-1
白色石油鉱油	15 - 40	不特定	(9)-1692;(9)-1703	(9)-1692;(9)-1703	8042-47-5
ブテン、ホモポリマーer	5 - 10	(C4H8)x	(6)-774	(6)-774	9003-29-6
二酸化チタン	5 - 10	O2Ti	(1)-558;(5)-5225	(1)-558;(5)-5225	13463-67-7
タルク	1 - 5	H2O3Si.3/4Mg	(1)-468	(1)-468	14807-96-6
留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類**	1 - 5	CxHy	-	-	64742-65-0
石油スルホン酸カルシウム	0.1 - 5	CxHyOzS. Ca	(9)-1732	既存化学物質	61789-86-4
アルキル化ジフェニルアミン	0.1 - 3	Unspecified	(3)-137;(3)-138;(3)-299;(3)-301;(9)-2049	(3)-301	68411-46-1
二リン酸ナトリウム	0.5 - 1.5	Na4P2O7	(1)-497	既存化学物質	7722-88-5
ドデシルベンゼンスルホン酸カルシウム	0.5 - 1.5	C36H58CaO6S2	(3)-1884,(3)-1906,(3)-1949	既存化学物質	26264-06-2

コメント ： ** IP 346 法で測定した DMSO 抽出物を 3%未満含有。
*化学名、CAS 番号、および/または正確な濃度は企業秘密扱いとする。

4. 応急措置

応急措置

吸入した場合 ： 呼吸が困難な場合には、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。

皮膚に付着した場合 ： 皮膚に付着した場合：多量の水で洗うこと。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
皮膚刺激が生じた場合：医師の診断／手当てを受けること。

眼に入った場合 ： 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が続く場合：医師の診断／手当てを受けること。

飲み込んだ場合 ： 医師の診断なく、無理に吐かせない。
被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。
気分が悪いときは、医師の診断／手当てを受けること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候及び症状

症状/損傷 吸入した場合 ： 気道に炎症を引き起こすことがある。

症状/損傷 皮膚に付着した場合 ： 皮膚刺激。
症状には、皮膚の発赤、乾燥、脱脂および亀裂があります。

症状/損傷 眼に入った場合 ： 強い眼刺激。
症状には、不快感や痛み、過剰なまばたきおよび流涙があり、赤みや腫れなど伴うことがあります。

症状/損傷 飲み込んだ場合 ： 飲み込むと有害のおそれ。
胃腸の炎症、吐き気、嘔吐、下痢を引き起こすことがある。

慢性症状 ： 生殖能への悪影響のおそれの疑い。

医師に対する特別な注意事項

その他の医学的アドバイスまたは治療 ： 症状は遅発性のことがある。
事故が起きたとき、あるいは気分が悪い場合、直ちに医師の診察を受けること。(できればﾗﾍﾞﾙを見せる)。

5. 火災時の措置

適切な消火剤 ： 二酸化炭素(CO2)、粉末薬品、泡消火剤、水霧

使ってはならない消火剤 ： ジェット水流は使用しないこと。

火災危険性 ： 燃焼生成物には、炭素酸化物が含まれることがありますが、それに限定されません。
硫黄酸化物。
有毒ヒューム。
刺激性蒸気。

消火時の保護具 ： 風上に保管して下さい。完全消化ターンアウトギア（フルバンカーギア）と呼吸保護（SCBA）を着用してください。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置

一般的措置 ： 十分に換気すること。
セクション 8 で推奨されている個人用保護具を使用してください。危険区域を隔離し、関係のないおよび保護されていない人が入ることを禁じてください。

環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 : 環境への放出を避けること。
下水道や公共用水域への侵入を防ぐ。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

封じ込め方法 : 流出した製品は、不活性物質（砂、バーミキュライトやその他の適切な物質）に吸収・収容した上で適した容器に入れてください。。
表層水、または下水に流さない。
推奨される個人用保護具を着用する。

浄化方法 : 漏出物は掃くまたはシャベルですくって適切な容器に封じ込め廃棄に備える。
換気を行ってください。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

安全取扱注意事項 : 使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、ヒューム、気体、ミスト、スプレー、蒸気の吸入を避けること。
眼、皮膚、衣類につけないこと。
飲み込まないでください。
使用中は飲食、喫煙しないこと。
容器は、注意深く取り扱い開くこと。
皮膚および眼との接触を避けること。
容器の開封および取り扱いは注意して行う。

衛生対策 : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
製品取扱い後には必ず手を洗う。

保管

安全な保管条件 : 施錠して保管すること。
子供の手の届かない場所に保管すること。
容器を密閉しておくこと。
涼しく乾燥した換気が十分に行われている場所に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

タルク (14807-96-6)	
日本 - ばく露限界値	
許容濃度(産衛学会)	総粉塵 4mg/m3 吸入性粉塵 1mg/m3
許容濃度(ACGIH®)	TWA 2 mg/m3 (E,R),STEL - (Containing no asbestos fibers);TWA Use Asbestos TLV(R)(K),STEL - (Containing asbestos fibers)

二酸化チタン (13463-67-7)	
日本 - ばく露限界値 (日本産業衛生学会)	
現地名	二酸化チタン # 二酸化チタン

二酸化チタン (13463-67-7)	
許容濃度	2 mg/m³ 総粉塵 1.5 mg/m³ 吸入性粉塵 0.3 mg/m³ ナノ粒子
特記事項 (JP)	発がん性分類 2B
規則参照	許容濃度等の勧告（2025 年度）産衛誌 67 巻
日本 - ばく露限界値	
許容濃度(産衛学会)	0.3mg/m3;【粉塵許容濃度】(第 2 種粉塵) 吸入性粉塵 1mg/m3 総粉塵 4mg/m3
許容濃度(ACGIH®)	TWA 10 mg/m3,STEL -

設備対策 : 作業所の十分な換気を確保する。
洗眼器と安全シャワーを作業場の近くに設置すること。

保護具

呼吸用保護具 : 換気が不十分である場合、適切な呼吸器を着用する、呼吸用装置の選択は、既知または予測される暴露レベル、製品の危険性および選択した呼吸用装置の安全使用限界に基づくこと、安全データシート（SDS）は、詳細かつ完全な呼吸用保護具のガイドラインを提供するものではありません。呼吸用保護具の選択は、作業環境を評価した有資格者が行わなければなりません。

手の保護具 : 適切な耐薬品性手袋を着用する、素材の適合性や素材の厚さについては、手袋メーカーの製品情報をご参照ください。
、下記の成分を含むため、手袋の使用を推奨します：ネオプレーンゴムまたはニトリルゴム製保護手袋

眼の保護具 : 当製品を使用する際には、保護メガネやゴーグルをお使いください。

皮膚及び身体の保護具 : 適切な保護衣を着用する、長袖シャツ、長ズボン、必要に応じて安全長靴.

環境へのばく露の制限と監視 : 環境への放出を避けること。

その他の情報 : 産業衛生および安全手順に従って処理する。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態 : 液体
外観 : 半固体
色 : オフホワイト
臭い : 軽い石油臭
臭気閾値 : データなし
pH : データなし
エーテルへの相対的蒸発率補填 : < 1
融点 : データなし
凝固点 : データなし
沸点 : データなし
引火点 : > 115 ° C / 239 °F
自然発火点 : データなし
分解温度 : データなし

可燃性	: 不燃性
蒸気圧	: データなし
相対蒸気密度 (20° C)	: > 1
相対密度	: 1.32 kg/L
密度	: 11.02 lb/gal
相対ガス密度	: データなし
溶解度	: 水に不溶性です。
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
爆発限界 (Vol-%)	: データなし
動粘性率	: データなし
VOC 含有量	: 微量
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
化学的安定性	: 引火性および爆発性の蒸気－空気混合物を形成することがある。通常の条件下では安定。
危険有害反応可能性	: 通常の使用条件下において、危険な反応は全く知られていない。
避けるべき条件	: 発火源。熱。混触危険物質。
混触危険物質	: 強力な酸化剤。強酸。強塩基。還元剤。
危険有害な分解生成物	: 炭素酸化物を含むことがありますが、それに限定されません。硫黄酸化物。刺激性蒸気。有毒ヒューム。

11. 有害性情報

その他の情報	: 可能性が高いばく露経路： 経口摂取、吸入、皮膚や目
急性毒性 (経口)	: データなし
急性毒性 (経皮)	: データなし
急性毒性 (吸入)	: データなし
追加情報	: 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

785 FG Parting Lubricant	
未知の急性毒性 (GHS JP)	混合物の 32%は未知の急性毒性(経口)の成分で構成されている 混合物の 40.8%は未知の急性毒性(経皮)の成分で構成されている 混合物の 43.1%は未知の急性毒性(吸入 (蒸気))の成分で構成されている

炭酸カルシウム (471-34-1)	
LD50 経口 ラット	6450 mg/kg (Source: NLM_CIP)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (Source: ECHA_API)
LC50 吸入 ラット	> 3 mg/l air Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 403 (Acute Inhalation Toxicity), Guideline: EU Method B.2 (Acute Toxicity (Inhalation)), Guideline: EPA OPPTS 870.1300 (Acute inhalation toxicity)

白色石油鉱油 (8042-47-5)	
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 401 (Acute Oral Toxicity)
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg BW Animal: rabbit, Guideline: OECD Guideline 402 (Acute Dermal Toxicity)
LC50 吸入 ラット	> 5 mg/l air Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 403 (Acute Inhalation Toxicity)

ブテン、ホモポリマーer (9003-29-6)	
LD50 経口 ラット	> 2000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 401 (Acute Oral Toxicity), Guideline: EU Method B.1 (Acute Toxicity (Oral))
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 402 (Acute Dermal Toxicity), Guideline: EU Method B.3 (Acute Toxicity (Dermal))
LC50 吸入 ラット	> 19.171 mg/l air Animal: rat, Guideline: EPA OPPTS 870.1300 (Acute inhalation toxicity)

タルク (14807-96-6)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50 値として、> 5,000 mg/kg (DFGOT vol. 22 (2006)) に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	データ不足のため分類できない。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データ不足のため分類できない。
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg BW Animal: rat, Animal sex: male, Guideline: OECD Guideline 423 (Acute Oral toxicity - Acute Toxic Class Method)
LD50 経口	5000 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 402 (Acute Dermal Toxicity)
LC50 吸入 ラット	> 2.1 mg/l air Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 403 (Acute Inhalation Toxicity), Guideline: EU Method B.2 (Acute Toxicity (Inhalation)), Guideline: EPA OPPTS 870.1300 (Acute inhalation toxicity)

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
急性毒性 (経口)	ラット LD50 値は > 5000 mg/kg bw（OECD TG 401 GLP）（IUCLID（2000））であり、区分外に該当する。
急性毒性 (経皮)	ウサギ LD50 値は > 5000 mg/kg bw（OECD TG402 GLP）（IUCLID（2000））であり、区分外に該当する。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における液体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。なお、類似物質 solvent-dewaxed light paraffinic distillates（CAS No. 64742-56-9）のラット LC50 値は > 4 mg/L（IUCLID（2000））であり区分 4 に該当する。
LD50 経口	5000 mg/kg
LD50 経皮	5000 mg/kg

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
急性毒性 (経口)	ラットの LD50=1000～3000mg/kg（ACGIH（2001））の下限値 LD50=1000mg/kg に基づき、区分 4 とした。
急性毒性 (経皮)	LD50 値が無く、データ不足のため分類できないとした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義による固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	データなし。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	データなし。
LD50 経口 ラット	1000 - 3000 mg/kg (Source: JAPAN_GHS)
LD50 経口	1000 mg/kg
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 402 (Acute Dermal Toxicity), Guideline: EU Method B.3 (Acute Toxicity (Dermal))
LD50 経皮 ウサギ	> 2000 mg/kg (Source: ECHA_API)

アルキル化ジフェニルアミン (68411-46-1)	
LD50 経口 ラット	> 5000 mg/kg (Source: EPA_HPV)
LD50 経皮 ラット	> 2000 mg/kg (Source: ECHA_API)

二酸化チタン (13463-67-7)	
急性毒性 (経口)	本分類には酸化チタンの情報のうち、ナノ粒子と明記されたデータを除いた情報を用いて分類を行った。ラットの LD50 値として、> 2,000 mg/kg、> 5,000 mg/kg (SIDS (2015))、> 10,000 mg/kg (HSDB (Access on May 2016)、環境省リスク評価第 8 巻 (2010))、> 12,000 mg/kg、> 20,000 mg/kg (環境省リスク評価第 8 巻 (2010)) の報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (経皮)	ハムスターの LD50 値として、> 10,000 mg/kg (HSDB (Access on May 2016)、環境省リスク評価第 8 巻 (2010)) の報告に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入:気体)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:蒸気)	GHS の定義における固体である。
急性毒性 (吸入:粉じん、ミスト)	ラットの LC50 値として、> 5.09 mg/L (SIDS (2015)) の報告に基づき、区分外とした。なお、> 3.43 mg/L (SIDS (2015)) の報告もあるが、区分が判定できないため、データとして採用しなかった。新たな情報を追加し、区分を変更した。
LD50 経口 ラット	> 10000 mg/kg (Source: IUCLID)

皮膚腐食性／刺激性　：皮膚刺激

タルク (14807-96-6)	
皮膚腐食性／刺激性	データ不足のため分類できない。なお、ボランティア 5 名に本物質を 3 日間閉塞適用した結果、刺激性はみられなかった (DFGOT vol. 22 (2006)) との情報があるが、それ以上の記載はなく詳細不明である。

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験（OECD TG 404 GLP）で PDII（一次刺激指数）は 0.27 ～ 0.38（IUCLID（2000））であり、区分外に該当する。

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
皮膚腐食性／刺激性	ヒトで mild から moderate の皮膚刺激反応が見られたとの記載（ACGIH（7th, 2001））に基づき、区分 2 とした。

二酸化チタン (13463-67-7)	
皮膚腐食性／刺激性	ウサギを用いた皮膚刺激性試験で、わずかな刺激性や刺激性なしとの記載 (SIDS (2015)) より、区分外 (国連分類基準の区分 3) とした。

眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性　：強い眼刺激

炭酸カルシウム (471-34-1)	
pH	8 - 9 (aqueous solution)

タルク (14807-96-6)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	データ不足のため分類できない。

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いたドレイズ試験（OECD TG 405 GLP）で PDII（一次刺激指数）は 0（IUCLID（2000））であり、区分外に該当する。

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	【分類根拠】（1）より、区分 1 とした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を見直した（2023 年度）。【根拠データ】（1）ウサギ（n=1）を用いた眼刺激性試験（OECD TG 405、GLP、4 時間観察）において、1 時間後に瞬膜及び上下の結膜から出血がみられ、重度の影響のため 4 時間後に試験が打ち切られたとの報告がある（REACH 登録情報 (Accessed Aug. 2023)）。
pH	10.2 (conc: 1 % (solution)

二酸化チタン (13463-67-7)	
眼に対する重篤な損傷性／刺激性	ウサギを用いた眼刺激性試験 (OECD TG 405) で、適用 24 時間後に 3 例中 2 例に軽度の結膜潮紅が認められたが、48 時間以内に消失したとの報告や、適用 24 時間後にわずかな刺激性が認められたが、48 及び 72 時間後には刺激が認められなかったとの報告 (SIDS (2015)) がある。これらの試験で認められた刺激は、物理的な刺激によるものとも考えられたが、粒子形状を確認できなかったため分類できないとした。
pH	7

呼吸器感作性 ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

タルク (14807-96-6)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。

二酸化チタン (13463-67-7)	
呼吸器感作性	データ不足のため分類できない。

タルク (14807-96-6)	
皮膚感作性	データ不足のため分類できない。なお、本物質が広範囲の化粧品で使用され、ボランティア実験が実施されているが、本物質がアレルギーを示すとの報告がこれまでにないとの記載 (DFGOT vol. 22 (2006)) や、ゴム手袋に起因するラテックスアレルギーは、タルクではなく粉末状の澱粉に起因することが確認されているとの記載 (DFGOT vol. 22 (2006)) がある。

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
皮膚感作性	モルモットを用いた Maximization test（OECD TG 406 GLP）で皮膚感作性が認められないことより（IUCLID（2000））区分外に該当するが、リスト 2 のデータであることから分類できないとした。

二酸化チタン (13463-67-7)	
皮膚感作性	モルモットを用いた皮膚感作性試験 (ビューラー法、OECD TG 406) 及びマウスを用いた皮膚感作性試験 (LLNA 法、OECD TG 429) はいずれも陰性であり、本物質には皮膚感作性はないと判断されている (SIDS (2015)) ことから、区分外とした。

生殖細胞変異原性 ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

タルク (14807-96-6)	
生殖細胞変異原性	分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。すなわち、in vivo では、ラット骨髄細胞を用いた染色体異常試験で陰性、優性致死試験で陰性と報告されている (IARC (1987)、ACGIH (7th, 2010)、DFGOT vol.22 (2006))。In vitro では、細菌を用いた復帰突然変異試験、ヒト培養細胞を用いた染色体異常試験、ラット培養細胞を用いた姉妹染色分体交換試験及び不定期 DNA 合成試験のいずれも陰性である (IARC 42 (1987)、ACGIH (7th, 2010)、DFGOT vol. 22 (2006))。

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
生殖細胞変異原性	ラットの経口および腹腔内投与による骨髄細胞を用いる染色体異常試験（OECD TG 475 GLP）（体細胞 in vivo 変異原性試験）において統計学的に有意な染色体異常の上昇が報告されているが、限定されたヒストリカルコントロールの範囲に対してとしている（IUCLID（2000））。他に in vivo 試験の結果および複数指標の in vivo 変異原性試験の結果もないことから分類できないとした。なお、マウスリンフォーマアッセイの結果は陰性である（IUCLID（2000））。

二酸化チタン (13463-67-7)	
生殖細胞変異原性	In vivo では、マウスの末梢赤血球、骨髄細胞を用いる小核試験で陰性、ラットの肺胞細胞を用いる hprt 遺伝子突然変異試験で陽性、マウスの骨髄細胞を用いる染色体異常試験、ラットの肺を用いる DNA 損傷試験で陰性の報告がある (SIDS (2015)、産総研 (2011)、DFGOT (2014)、環境省リスク評価第 8 巻 (2010)、IARC 93 (2010))。In vitro では、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の小核試験、染色体異常試験、マウスリンフォーマ試験でいずれも陰性の結果が報告されている (SIDS (2015)、産衛学会許容濃度提案理由書 (2013)、産総研 (2011)、IARC 93 (2010)、環境省リスク評価第 8 巻 (2010)、DFGOT (2014))。また、SIDS (2015)は、in vivo の陽性知見は標準的な試験によるものではなく、本物質が遺伝毒性を有するとは結論できないと評価している。以上より、分類できないとした。

発がん性 ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

タルク (14807-96-6)	
発がん性	初期の疫学研究ではアスベスト繊維を含有しないタルク (石英を含有) を職業的に吸入ばく露したヒトのコホート研究、5 件中 4 件で中皮腫は認められず、タルクへの累積ばく露量が高レベルのコホート研究 2 件における高ばく露群の肺腫瘍発生率は全 5 件のデータを統合した肺腫瘍発生率より低値であった (IARC 93 (2010))。一方、1 件のコホート研究報告で、亜集団に肺腫瘍発生率の増加がみられたが、この集団はラドンと石英に共ばく露され、コホート全体では肺腫瘍の発生率増加はみられていない (IARC 93 (2010))。また、コホート内症例対照研究においても、タルク粉じんへの累積吸入ばく露量の増加に伴う肺がんリスクの増加傾向は示されなかった (IARC 93 (2010))。実験動物でも、ラット、又はマウスに粒子径の小さい (粒子径 10 μm 以下) 高純度 (繊維成分及びアスベスト様無機物を含まない) のタルクを 2 年間以上吸入ばく露（6 又は 18 mg/m3）した発がん性試験において、いずれの種でも肺腫瘍の発生率増加はなく、特にラットでは肺に非腫瘍性変化が顕著に認められる濃度 (18 mg/m3) においても、肺腫瘍の発生率の増加はみられていない (IARC 93 (2010)、ACGIH (7th, 2010)、NTP TR421 (1993))。一方、欧米ではタルクをベースとしたボディーパウダーがナプキンや避妊用具を介して女性の会陰部、生殖器官へ適用されてきた。IARC は全体で 1 件の前向きコホート研究、及び 19 件の症例対照研究を総括し、化粧用タルクの使用と卵巣がんのリスクの増加に関して、相対リスクの増加が多くの報告で示され、局所適用したタルクが卵巣へ逆行的に移行するという証拠は健常な女性では低いが、外科手術等によりクリアランス機能が低下した女性では逆行性移行の証拠が一定程度あるとして、タルク含有ボディーパウダーの会陰部使用による卵巣がんのリスク増加には限定的な証拠があると結論した (IARC 93 (2010))。以上より、IARC はアスベスト、及びアスベスト様繊維を含有しないタルクについて、吸入経路ではグループ 3 に、タルクをベースとしたボディーパウダーの会陰部適用ではグループ 2B に分類した (IARC 93 (2010))。ACGIH は IARC による発がん性評価結果を踏まえつつも、発がん性分類は職業ばく露のみに限定して A4 に分類した (ACGIH (7th, 2010))。本評価では IARC の「タルクベースの製品の会陰部適用でのグループ 2B」は極めて限定された本物質の特異な用途及び適用経路における発がん性分

タルク (14807-96-6)	
	類結果と判断し、本項の分類のための総合評価の観点からはこれを除外することとした。その上で、IARC の吸入経路での分類結果、並びに ACGIH の分類結果が妥当と判断し、本項はアスベスト (又はアスベスト様繊維、無機物) を含有しないタルクに対して、「分類できない」とした。
IARC グループ	分類できない
National Toxicology Program (NTP) Status	発がん性の証拠

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
発がん性	IARC が高精製のミネラルオイルをグループ 3、無精製、中程度の精製ミネラルオイルをグループ 1 としており（IARC 33（1987））、精製度よって区分が異なる。本物質の精製度が不明であることから分類できないとした。

二酸化チタン (13463-67-7)	
発がん性	欧州での大規模コホート研究において、本物質への職業ばく露により肺がんのリスクの軽度増加が示唆されたが、ばく露群において用量-反応関係がみられなかった、その他、北米でのコホート研究及び症例対照研究では本物質ばく露と発がんとの関連性は示されず、ヒトでの発がん性の証拠は限定的とされた (IARC 93 (2010))。実験動物ではラットに 2 年間吸入ばく露した 1 つの試験において、高濃度群 (250 mg/m3) で肺の腺腫及び扁平上皮がんの頻度の増加がみられた (IARC 93 (2010)、SIDS (2015))。また、本物質の超微細粒子 (P25) をラットに 2 年間吸入ばく露した試験でも、ばく露群では肺腫瘍 (良性扁平上皮腫瘍、扁平上皮がん、腺腫、腺がん) の発生頻度の増加 (32/100 vs 対照群 1/271) がみられたが、マウスの試験では腫瘍発生の増加がみられなかった (IARC 93 (2010))。この他、酸化チタンをラットに気管内注入した試験で良性及び悪性の肺腫瘍の頻度増加が認められた。他方、ラット、マウスに経口、皮下、腹腔内投与したいずれの試験においても、腫瘍の増加はみられなかった (IARC 93 (2010))。以上より、IARC は実験動物では発がん性の十分な証拠があるとして、グループ 2B に分類した (IARC 93 (2010))。この他、日本産業衛生学会が暫定的分類として第 2 群 B に分類している (許容濃度の勧告 (2015))。よって、本項は区分 2 とした。
IARC グループ	ヒトに対して発がん性が疑われる

生殖毒性 ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

タルク (14807-96-6)	
生殖毒性	データ不足のため分類できない。なお、タルク (成分情報非公開) をラット、又はマウスに 1,600 mg/kg/day で妊娠 6-15 日に、ウサギに 900 mg/kg/day で妊娠 6-18 日に経口投与した試験で、催奇形性は陰性であったとの記述がある (DFGOT vol. 22 (2006)、ACGIH (7th, 2010))。

二酸化チタン (13463-67-7)	
生殖毒性	ラットを用いた簡易生殖毒性試験 (OECD TG 421) において、1,000 mg/kg/day の用量まで強制経口投与しても親動物の生殖能及び児動物の生存、生後 4 日までの発育に有害な影響はみられなかった (SIDS (2015))。しかし、本試験はスクリーニング試験のため、この結果のみでは区分外とできず、この他分類に利用可能なデータがなく、データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

鉛 (7439-92-1)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトでの急性中毒では腎機能障害が認められたとの症例報告がある（DFGOT, vol.17(2002))が、同じ出典に、その後の疫学調査では、腎障害は無かったとの記述があり、腎臓を標的臓器とするにはデータ不足であるため分類できないとした。

タルク (14807-96-6)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	本物質の急性影響を示す情報は少ない。ヒトでは、乳幼児のタルク吸入事故 (濃度等詳細情報不明) で、咳、くしゃみ、呼吸困難、息切れ、嘔吐、異物反応 (詳細不明)、肺の過負荷、呼吸障害、肺炎の報告がある (DFGOT vol. 22 (2006))。実験動物では、ハムスターへの本物質 (比較的高純度のタルクを産出する Vermont の作業場から採取したグラナイト (12% 石英) 及びタルクダスト (石英及びアスベスト不含) を使用) を用いる 0.15、3.75 mg/100g 体重の気管内注入で、注入 1 日後、酵素濃度 (詳細不明) の増加、肺水腫、マクロファージ食作用の抑制、ばく露 2 週間後、グラナイトばく露群では急速に回復したが、タルクダストばく露群では酵素濃度 (詳細不明) 増加及びマクロファージ食作用抑制が継続したと報告がある (ACGIH (7th, 2010))。以上のとおり、実験動物及びヒトのデータは限定的であるが、呼吸器への影響が懸念されることから、区分 1 (呼吸器) とした。

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	ヒトで咳および鼻と咽頭の刺激がみられる（ICSC（J）（1997）、HSFS（2001））ことに基づき、区分 3（気道刺激性）とした。

二酸化チタン (13463-67-7)	
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

ナフタレン (91-20-3)	
LOAEL (経口、ラット、90 日)	400 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 408 (Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity Study in Rodents)
LOAEC (吸入、ラット、蒸気、90 日)	0.011 mg/l air Animal: rat, Guideline: EPA OPP 82-4 (90-Day Inhalation Toxicity), Guideline: OECD Guideline 413 (Subchronic Inhalation Toxicity: 90-Day Study)
NOAEL (経口、ラット、90 日)	200 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 408 (Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity Study in Rodents)

ナフタレン (91-20-3)	
NOAEL (経皮、ラット/ウサギ、90 日)	1000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 411 (Subchronic Dermal Toxicity: 90-Day Study)

鉛 (7439-92-1)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	DFGOTvol.17 (2002)の標的臓器は造血系、神経系、腎臓および心血管系であるとの記述、EHC 3 (1977)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)、IARC 23 (1980)のヒト暴露例でヘム合成阻害、腎症、脳疾患が認められるとの記述、EHC 3 (1977)、ACGIH (7th, 2001)、PATTY (4th, 1994)のヒト暴露例で末梢神経及び中枢神経機能に影響があるとの記述、EHC 3 (1977)、ACGIH (7th, 2001)のヒト暴露例で高血圧など心臓血管系に影響があるとの記述、PATTY (4th, 1994)のヒト暴露例で免疫抑制作用がみられるとの記述から、標的臓器は造血系、腎臓、中枢神経系、末梢神経系、心血管系および免疫系と考えられ、いずれも区分 1 とした。EHC 3 (1977)に甲状腺または副腎機能低下の症例報告があるとの記述があるが、いずれも 1970 年以前の症例報告で、その後は同様の報告がなく、DFGOTvol.17 (2002)には甲状腺に影響がないとの記述もあることから、甲状腺と副腎が標的臓器とは考えられなかった。

炭酸カルシウム (471-34-1)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	1000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 422 (Combined Repeated Dose Toxicity Study with the Reproduction / Developmental Toxicity Screening Test)
NOAEC (吸入、ラット、粉じん/ミスト/煙、90 日)	≥ 0.212 mg/l air Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 413 (Subchronic Inhalation Toxicity: 90-Day Study)

白色石油鉱油 (8042-47-5)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	≥ 1200 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 453 (Combined Chronic Toxicity / Carcinogenicity Studies)

ブテン、ホモポリマーer (9003-29-6)	
LOAEL (経口、ラット、90 日)	1000 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: other:
NOAEC (吸入、ラット、蒸気、90 日)	1 mg/l air Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 422 (Combined Repeated Dose Toxicity Study with the Reproduction / Developmental Toxicity Screening Test), Guideline: OECD Guideline 413 (Subchronic Inhalation Toxicity: 90-Day Study)

タルク (14807-96-6)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	吸入経路では、ヒトにおいて、職業ばく露により、肺機能障害、X 線検査において肺の陰影の有症率増加の報告がある (ACGIH (7th, 2010))。したがって、区分 1 (呼吸器)とした。なお、実験動物については、ラットを用いた 113-122 週間吸入毒性試験において、0.006 あるいは 0.018 mg/Ｌで肺の変化 (肉芽腫性炎症、間質性線維化、肺胞上皮の過形成、嚢胞、肺胞の扁平上皮化生)、マウスを用いた 24 ヶ月間吸入毒性試験おいて、0.006 mg/Ｌ以上で肺の変化 (慢性炎症、マクロファージの集簇) がみられている (ACGIH (7th, 2010))。これらの所見は、区分 2 を超える用量でみられている。

タルク (14807-96-6)	
NOAEL (経口、ラット、90 日)	100 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 452 (Chronic Toxicity Studies)

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ウサギを用いた 21 日間の経皮毒性試験（6 時間/日、3 日/週）において、5000mg/kg の用量で毒性は見られなかった（IUCLID（2000））との記述があるが、他にデータが無いのでデータ不足で分類できないとした。

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため、分類できない。
NOAEL (経口、ラット、90 日)	500 mg/kg BW Animal: rat, Guideline: OECD Guideline 408 (Repeated Dose 90-Day Oral Toxicity in Rodents)

二酸化チタン (13463-67-7)	
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	ヒトに関する情報はない。実験動物では、ラットを用いた 2 年間吸入毒性試験において、区分 1 の範囲である 10 mg/m3 で白血球数・好中球数の増加、肺炎、気管支炎、鼻腔前半部の扁平上皮化生を伴う鼻炎の増加、ラットを用いた 24 ヵ月吸入毒性試験において 5 mg/m3 で肺の線維化、気管支肺胞洗浄液 (BALF) においての細胞学的パターンのわずかな変化、多形核白血球数のわずかな増加、マクロファージの増加、肺に関連したリンパ節の過形成が認められている (SIDS (2015))。なお、経口経路では、ラット、マウスを用いた混餌投与による 13 週間あるいは 103 週間反復投与毒性試験において区分外に相当する用量でも影響はみられていない。したがって、区分 1 (呼吸器) とした。

誤えん有害性 ： 利用可能なデータに基づいて、分類基準を満たしていない

タルク (14807-96-6)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
誤えん有害性	炭化水素であり、40℃での動粘性率は 25.1 mm2/s（CONCAWE（1997））より、区分外に該当するが、データ不足で分類できない。

アルキル化ジフェニルアミン (68411-46-1)	
動粘性率	352.7 mm^2/s Temp.: '40° C' Parameter: 'kinematic viscosity (in mm^2/s)'

二酸化チタン (13463-67-7)	
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

生態系 - 全般 ： 水生環境中で長期にわたり悪影響を及ぼすことがある。
未知の水生環境有害性 (GHS JP) ： 未知の水生環境有害性の成分を 27%含有する。
水生環境有害性　短期（急性） ： 区分に該当しない

水生環境有害性　長期（慢性）　：区分に該当しない

炭酸カルシウム (471-34-1)	
EC50 72h - 藻類 [1]	> 14 mg/l Test organisms (species): Desmodesmus subspicatus (previous name: Scenedesmus subspicatus)
BCF - 魚 [1]	(no bioaccumulation)

白色石油鉱油 (8042-47-5)	
LC50 - 魚 [1]	> 10000 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Lepomis macrochirus)
n-オクタノール/水分配係数	> 6

ブテン、ホモポリマーer (9003-29-6)	
LC50 - 魚 [1]	> 1.55 mg/l Test organisms (species): Cyprinus carpio
EC50 - 甲殻類 [1]	> 3.1 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	> 19.2 mg/l Test organisms (species): Desmodesmus subspicatus (previous name: Scenedesmus subspicatus)
n-オクタノール/水分配係数	7.6 - 7.8 (at 20 ° C (at pH 7)

タルク (14807-96-6)	
水生環境有害性　短期（急性）	区分に該当しない
水生環境有害性　長期（慢性）	区分に該当しない
LC50 - 魚 [1]	> 100 g/l (Exposure time: 96 h - Species: Brachydanio rerio [semi-static])
LC50 - 魚 [2]	110000 mg/l Test organisms (species): other:
EC50 96h - 藻類 [1]	7202.7 mg/l Test organisms (species): other:
NOEC (慢性)	1459798 mg/l Test organisms (species): other: Duration: '30 d'
BCF - 魚 [1]	(no known bioaccumulation)

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
水生環境有害性　短期（急性）	区分に該当しない
水生環境有害性　長期（慢性）	区分に該当しない

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
水生環境有害性　短期（急性）	本物質の信頼できる試験データはなく、リン酸カリウム塩類を用いた試験で、魚類(ニジマス)96 時間 LC50(OECD TG203、GLP)> 100 mg/L(REACH 登録情報 (2010))、甲殻類(オオミジンコ)48 時間 EC50(EPA OTS 797.1300、GLP)> 100 mg/L(REACH 登録情報 (1990))、藻類(デスモデスムス属)72 時間 ErC50(EU Method C.3、GLP)> 100 mg/L(REACH 登録情報 (2010)) である。以上の結果から、区分に該当しないとした。

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
水生環境有害性　長期（慢性）	本物質の信頼できる試験データはなく、リン酸カリウム塩類を用いた試験で、慢性毒性データがある栄養段階(藻類)に対して、無機化合物であり、藻類(デスモデスムス属)72 時間 NOErC(EU Method C.3、GLP)> 100 mg/L(REACH 登録情報 (2010))のため、区分に該当しないとなる。慢性毒性データが得られていない栄養段階(魚類、甲殻類)に対して、急性毒性データを用いた場合、無機化合物であり、濃縮性不明、難水溶性ではなく(水溶解度(EU Method A.6、GLP))=58.5 g/L(REACH 登録情報 (2010)))、魚類(ニジマス)96 時間 LC50> 100 mg/L、甲殻類(オオミジンコ)48 時間 EC50> 100 mg/L から、区分に該当しないとなる。以上の結果から、区分に該当しないとした。
LC50 - 魚 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species): Oncorhynchus mykiss (previous name: Salmo gairdneri)
EC50 - 甲殻類 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species): Desmodesmus subspicatus (previous name: Scenedesmus subspicatus)
ErC50 藻類	100 mg/l
NOEC 藻類 慢性	100 mg/l

アルキル化ジフェニルアミン (68411-46-1)	
LC50 - 魚 [1]	> 100 mg/l (Exposure time: 96 h - Species: Danio rerio [static] Source: ECHA)
EC50 - 甲殻類 [1]	51 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 72h - 藻類 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species): Desmodesmus subspicatus (previous name: Scenedesmus subspicatus)

二酸化チタン (13463-67-7)	
水生環境有害性　短期（急性）	藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）72 時間 EL50 (growth rate) > 100 mg/L、甲殻類（オオミジンコ）48 時間 EL50 > 100 mg/L、魚類（メダカ）96 時間 LL50 > 100 mg/L（いずれも SIDS, 2015）であることから、区分外とした。
水生環境有害性　長期（慢性）	信頼性のある慢性毒性データが得られていない。難水溶性で（水に不溶、ICSC, 2002）、急性毒性区分外ではあるが、無機化合物で環境中の挙動が不明であることから区分 4 とした。
LC50 - 魚 [1]	155 mg/l Test organisms (species): other:Japanese Medaka
EC50 - 甲殻類 [1]	19.3 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 - 甲殻類 [2]	27.8 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna
EC50 - 他の水生生物 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species):
EC50 72h - 藻類 [1]	> 100 mg/l Test organisms (species): Pseudokirchneriella subcapitata (previous names: Raphidocelis subcapitata, Selenastrum capricornutum)
LOEC (慢性)	5 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna Duration: '21 d'

二酸化チタン (13463-67-7)	
NOEC (慢性)	≥ 2.92 mg/l Test organisms (species): Daphnia magna Duration: '21 d'

残留性・分解性

785 FG Parting Lubricant	
残留性・分解性	決定していない。

炭酸カルシウム (471-34-1)	
残留性・分解性	急速分解性でない

白色石油鉱油 (8042-47-5)	
残留性・分解性	急速分解性でない

ブテン、ホモポリマーer (9003-29-6)	
残留性・分解性	急速分解性あり

タルク (14807-96-6)	
残留性・分解性	急速分解性あり

留分（石油）、溶剤脱脂重質パラフィン類 (64742-65-0)	
残留性・分解性	急速分解性あり

二リン酸ナトリウム (7722-88-5)	
残留性・分解性	急速分解性あり

ドデシルベンゼンスルホン酸カルシウム (26264-06-2)	
残留性・分解性	急速分解性あり

アルキル化ジフェニルアミン (68411-46-1)	
残留性・分解性	急速分解性あり

石油スルホン酸カルシウム (61789-86-4)	
残留性・分解性	急速分解性あり

二酸化チタン (13463-67-7)	
残留性・分解性	急速分解性あり

生体蓄積性

785 FG Parting Lubricant	
生体蓄積性	決定していない。
n-オクタノール/水分配係数	データなし

炭酸カルシウム (471-34-1)	
BCF - 魚 [1]	(no bioaccumulation)

白色石油鉱油 (8042-47-5)	
n-オクタノール/水分配係数	> 6

ブテン、ホモポリマーer (9003-29-6)	
n-オクタノール/水分配係数	7.6 - 7.8 (at 20 ° C (at pH 7)

タルク (14807-96-6)	
BCF - 魚 [1]	(no known bioaccumulation)

土壌中の移動性

785 FG Parting Lubricant	
土壌中の移動性	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし

白色石油鉱油 (8042-47-5)	
n-オクタノール/水分配係数	> 6

ブテン、ホモポリマーer (9003-29-6)	
n-オクタノール/水分配係数	7.6 - 7.8 (at 20 ° C (at pH 7)

オゾン層への有害性

オゾン層への有害性 : データなし

その他の有害な影響

その他の情報 : その他の影響は知見されていない。

13. 廃棄上の注意

推奨製品/梱包処分 : 内容物／容器を地方、地域、国内の法令や国際的法令に順守した危険廃棄物又は特別廃棄物の収集場所廃棄すること。

14. 輸送上の注意

国際規制

輸送規則の定義上危険物に該当しない。

国連勧告(UN RTDG)

国連番号 (UN RTDG) : 規制されていない
正式品名 (UN RTDG) : 規制されていない
容器等級(UN RTDG) : 規制されていない
輸送危険物分類（UN RTDG） : 規制されていない

海上輸送(IMDG)

国連番号 (IMDG) : 規制されていない

正式品名 (IMDG) ： 規制されていない
容器等級(IMDG) ： 規制されていない
輸送危険物分類 (IMDG) ： 規制されていない

航空輸送(IATA)
国連番号 (IATA) ： 規制されていない
正式品名 (IATA) ： 規制されていない
容器等級 (IATA) ： 規制されていない
輸送危険物分類 (IATA) ： 規制されていない

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質
非該当

国内規制

海上規制情報 ： 船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報 ： 航空法の規定に従う。
その他の情報 ： 規制されていない.

15. 適用法令

国内法令

化審法 ： 優先評価化学物質（法第２条第５項）
労働安全衛生法 ： 作業環境評価基準（法第６５条の２第１項）
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２）
【改正後 令和８年４月１日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２）
【改正後 令和９年４月１日以降】
名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第５７条第１項、施行令第１８条第２号～第３号、安衛則第３０条別表第２）
危険物・発火性の物（施行令別表第１第２号）
鉛（施行令別表第４・鉛中毒予防規則第１条第１号）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２）
鉱油 （別表の番号 : 581） (30 ~ 40%)
オキシビスホスホン酸四ナトリウム （別表の番号 : 341） (5%未満)
酸化チタン（Ⅳ） （別表の番号 : 623） (1 ~ 10%)
【改正後 令和８年４月１日以降】
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２）
鉱油 （別表の番号 : 581） (30 ~ 40%)
オキシビスホスホン酸四ナトリウム （別表の番号 : 341） (5%未満)
酸化チタン（Ⅳ） （別表の番号 : 623） (1 ~ 10%)
【改正後 令和９年４月１日以降】

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第５７条の２第１項、施行令第１８条の２第２号～第３号、安衛則第３４条の２別表第２）
鉱油 （別表の番号 : 581） (30 ~ 40%)
オキシビスホスホン酸四ナトリウム （別表の番号 : 341） (5%未満)
酸化チタン（Ⅳ） （別表の番号 : 623） (1 ~ 10%)
特殊健康診断対象物質・現行取扱労働者（法第６６条第２項、施行令第２２条第１項）
濃度基準値設定物質（安衛則第５７７条の２第２項、令和５年４月２７日告示第１７７号、令和５年４月２７日公示第２４号）
皮膚等障害化学物質等・皮膚刺激性有害物質（安衛則第５９４条の２第１項、令和４年５月３１日基発０５３１第９号、令和５年７月４日基発０７０４第１号・５該当物質の一覧「eye」）

水質汚濁防止法 ： 有害物質（法第２条、施行令第２条、排水基準を定める省令第１条）
指定物質（法第２条第４項、施行令第３条の３）

消防法 ： 第２類可燃性固体、金属粉（法第２条第７項危険物別表第１・第２類）
指定可燃物、可燃性固体類（法第９条の４、危険物令第１条の１２・別表第４）

大気汚染防止法 ： 有害物質（法第２条第１項第３号、施行令第１条）
有害大気汚染物質に該当する可能性がある物質（中央環境審議会第９次答申）
有害大気汚染物質、優先取組物質（中央環境審議会第９次答申）
揮発性有機化合物（法第２条第４項） （環境省から都道府県への通達）

海洋汚染防止法 ： 個品運送Ｐ（施行規則第３０条の２の３、国土交通省告示）
油性混合物（施行規則第２条の２）
有害でない物質（施行令別表第１の２）
有害液体物質（Ｘ類物質） （施行令別表第１）
有害液体物質（Ｘ類物質）・油性混合物（施行令別表第１第１号イ（８１））
有害液体物質（Ｙ類物質） （施行令別表第１）
有害液体物質（Ｚ類物質） （施行令別表第１）

外国為替及び外国貿易法 ： 輸入貿易管理令第４条第１項第２号輸入承認品目「２の２号承認」
輸出貿易管理令別表第１の２項
輸出貿易管理令別表第１の７項
輸出許可貨物・補完品目（キャッチオール規制） （法第４８条第１項、輸出令第１条別表第１の１６の項（２））
輸出承認貨物・特定有害廃棄物等（法第４８条第３項、輸出令第２条別表第２の３５の２の項）
輸出承認貨物・特定有害化学物質等（法第４８条第３項、輸出令第２条別表第２の３５の３の項、平成２９年７月２４日告示第１７２号）

道路法 ： 車両の通行の制限（施行令第１９条の１３、（独）日本高速道路保有・債務返済機構公示第１２号・別表第２）

廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ： 特別管理産業廃棄物（法第２条第５項、施行令第２条の４）

特定有害廃棄物輸出入規制法（バーゼル法） ： 特定有害廃棄物（法第２条第１項第１号イ、平成３０年６月１８日省令第１２号）

水道法 ： 有害物質（法第４条第２項）、水質基準（平１５省令１０１号）

下水道法 ： 水質基準物質（法第１２条の２第２項、施行令第９条の４）

化学物質排出把握管理促進法(PRTR 法)	： 第１種指定化学物質（法第２条第２項、施行令第１条別表第１） 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩（アルキル基の炭素数が１０から１４までのもの及びその混合物に限る。） (管理番号 : 30) (1.4%)
労働基準法	： 疾病化学物質（法第７５条第２項、施行規則第３５条別表第１の２第４号１） がん原性化学物質（法第７５条第２項、施行規則第３５条別表第１の２第７号） 感作性を有するもの（法第７５条第２項、施行規則第３５条別表第１の２第４号、平８労基局長通達、基発第１８２号）
農薬取締法	： 販売禁止農薬（法第１８条第２項、平成１５年３月５日省令第１１号、令和５年４月４日省令第２号・別表第２）
じん肺法	： 法第２条、施行規則第２条別表粉じん作業
土壌汚染対策法	： 特定有害物質（法第２条第１項、施行令第１条）

16. その他の情報

その他の情報	： なし。
改訂日	： 2026/03/27
作成者	： Nexreg Compliance Inc. www.Nexreg.com

免責事項: 弊社は本文書に記載されているステートメント、技術情報、推奨事項は信頼できるものであると確信しておりますが、一切の保証はいたしません。本文書に記載されている情報は、提供されている素材にのみ適用されます。他の素材と組み合わせて使用する場合には適格でない可能性があります。使用者の特定の用途におけるこれらの情報の適格性および完全性を判断するのは、使用者自身の責任となります。